

言問い(こととい)：50周年記念植樹イチイに命名されたものです。

昭和22年 開校当時の校舎
旧軍馬補充部の厩舎を利用

令和7年度 西春別中学校 第4号

こととい



令和7年6月30日 発行

< 校 訓 >

自 主 友 愛 有 能

< めざす生徒像 >

- ・自ら学び考える生徒
- ・心と体を鍛える生徒
- ・協働する生徒
- ・郷土を愛する生徒

発行責任者 校長 綾野 正巳

「開校50周年記念誌」

学校の敷地に「不発弾!？」

西春別中学校長 綾野 正巳

とても道東の6月とは思えない気温の高い日が続いておりますが、牧草地の草はきれいに刈られ、真新しい牧草ロールに夏の訪れを感じる頃となりました。

校舎内にも熱がこもって暑くなる日が増えています。実は、今年から別海町の小中学校にはクーラーが設置されています。しかしながら、今年度で閉校となる西春別小中学校には設置されておりません。閉校した中西別小学校から扇風機を10台近く運び入れ、昨年設置されたスポットクーラーと併用しながら最後の夏を乗り切っていきます。水分補給や熱中症対策もしっかりと行い、教育活動を進めてまいります。

西春別中学校開校当時の教師・生徒たちの苦労に比べたら、、、暑さに負けてはいられません。

私は、西春別中学校へ赴任してすぐに、校長室で開校50周年記念誌を見つけ、本校の歴史を学ぼうと手に取りました。多くの方たちの寄稿文から、当時の苦労、喜び、情熱、希望がひしひしと伝わってきました。最近、閉校に向けての準備を進めながらも一度読み返しています。

今回は、西春別中学校の歴史が伝わる文章の一部をご紹介します。

【渡部 久夫氏(教諭) 在職 昭和37～42年】

赴任した当時、ここは旧軍馬補充部のあったところで、この校舎は馬小屋だったのだと聞かされ、なるほどと思った。節穴だらけの壁板に波を打ったように歪んだ床、いかにも古い建物を改造したように見受けられた。

あの校舎には、教師や生徒達の愛情や情熱が木のぬくもりと共に感じられ、私にとっても忘れられない思い出の校舎となっている。

【鴨志田 武彦氏(教諭) 在職 昭和35～40年】

「爆弾騒動」校舎裏手に広場があり、相撲の土俵やバレーボールコート、実習農園があった。職業科の実習で温室を作るため地面を掘下げている時のことです。突然スコップの先が固い物に当たり、それは金属製の物体のようであった。子供たちの逸る気持ちを押さえて慎重に掘り進んでい聞くと、ロケット弾のような錆びた物体が出てきた。爆弾である。それも不発弾であることを知った時の驚きは半端なものではなかった。若し雷管にでも触れ爆発していたらと思うと、背筋が引き締まる思いであった。

学校が爆弾騒ぎとなり、駐在所、消防署に連絡しその結果、西春別駅前の自衛隊駐屯地に爆弾処理をお願いした。爆弾処理の当日、物々しい自衛隊の警戒のもと、隣家の牧草地に爆弾を運び出し、穴を掘ってその中で爆弾を処理してもらい、爆弾騒動は一件落着となった。

開校当時の校舎は、教師・生徒の心に大きな印象を残しているようです。

まさか、敷地内に不発弾とは。戦争の恐ろしさが伝わってきます。このようなことが2度と起きない未来を願っています。

